2009年（平成21年）
第20号
（8月15日）

平安月報

The HEIAN monthly report

発　行　所：立正佼成会　京都教会
発行責任者：渉外部長　宮地啓安
〒605-0041　京都市東山区三条蹴上
TEL (075)762-2211　FAX (075)762-2266

京都教会５０年の歩み（６回目）京都普門館建設…宗教協力の足がかりとして

昭和６３年１２月、１９年間務められた滝口教会長の後任として、本部渉外課長、静岡教会長を歴任した、青嶋久雄が京都教会長として新しく就任した。

■地域に根ざした教会を目指して

青嶋教会長時代には、対社会・文化活動及び宗教協力活動が広範囲に活発化し、新道場建設により、地域・一般社会との関係を密接にする取り組みがなされた。

平成元年、社会文化活動を推進するため「豊かな心を育てる京都会議」を発足。「東京佼成ウインドオーケストラの平和音楽会」を開催した。

そして、同年１０月１日、京都教会において、発足３０周年記念式典を挙行された。多数の来賓の方々も招き、朝・昼２回に分けた式典が盛大に行われた。

■新道場の建設

平成２年になって、京都教会新道場（京都普門館）建設が具体化し、同年６月７日、三条蹴上の地において、道場建設のために地鎮祭が挙行された。新道場は庭野開祖の意向が盛り込まれた設計に基づいて建設された。

平成３年３月２７日、会員一人ひとりが世界平和や家庭成仏などの願いを記した石を、本尊安置場所の直下３０メートルの地中に礎石として埋め込む「平和祈願石納め式」が行われた。そして、平成４年８月３日、長沼理事長（当時）を迎えて上棟式を、平成５年９月２８日、会長先生ご夫妻、長沼理事長臨席のもと定礎式を、同年１２月１９日、ご本尊安置式が行われ、同月２３日、会長先生導師のもとに入仏式が、そして、平成６年３月２７日、落慶式が行われ、開祖、会長先生、長沼特別顧問、内田理事長、各宗大本山の猊下、大僧正の方々、有識者の方々のご臨席のもと、新しい道場での第一歩を踏み出した。

■新宗連京都府協議会の設立

この京都普門館建設を進める一方で、宗教協力の推進が図られ、その結果、平成４年４月１８日、新宗連７教団による「新宗連京都府協議会」が設立され、

さらに同年９月１４日、京都府宗教連盟に新宗連として正式加盟し、京都での宗教協力推進の足がかりを設けた。

大本「瑞生大祭」執り行われる

８月７日、大本本部万祥殿において、大本４大大祭のひとつ「瑞生大祭」が、全国の信徒が列席して執り行われた。本会も開祖以来のご縁や亀岡宗教懇話会での取り組みもあって、大祭にお招きいただいた。

瑞生大祭は、出口王仁三郎教祖の生誕を祝し、全世界の平和と万民和楽の「みろくの世」（地上天国）実現を祈る夏の祭りとして執り行われる。

この日は地元亀岡市の「平和祭」当日で、この前後は国内各地で世界平和を祈る式典が相次いで開催される時期に、この時期に瑞生大祭が行われることは、大本が基本精神である「人類愛善」「万教同根」にふさわしいものといえる。

大祭に引き続き、出口紅教主はあいさつで、先の国会で可決した「臓器移植法改正案」に反対すると述べられた。脳死を人の死とすることで、生命軽視の風潮がさらに悪化するとし、「脳死者」の増加を期待するのでなく、全国各地の医療施設における救命救急体制の充実・強化を図ることと、それと同時に、移植に代わる種々の代替医療の実用化の促進に、総力を挙げて力を注がれるよう要望すると述べられた。

時事刻々

八月六日、六十四回目の広島原爆の日が行われた。「Ｙｅｓ　Ｗｅ　Ｃａｎ！」と秋葉忠利広島市長は、核兵器廃絶に向けて力強く宣言した。中でも広島市のこども代表による「平和への誓い」には、未来に希望を抱く素直な気持ちが表現されていた。

小学六年の矢埜哲也君と遠山有希さんが、「小さな一歩かもしれません。世界が平和になるために、原爆や戦争という『闇』から目をそむけることなく、しっかりと真実を見つめます。世界の人々に平和への思いを訴え続ける」と誓った。

一九七八（昭和五十三）年、国連史上初の国連軍縮特別総会での、庭野開祖の演説で「危険をおかしてまで武装するよりも、むしろ平和のために危険をおかすべきである」と非武装による平和を訴えた。これら平和の精神が未来のある子供たちに受け継がれることを期待したい。

明るい社会づくり運動

佼成ウインドオーケストラ演奏会

７月９日東京佼成ウインドオーケストラ関西公演が６年ぶりに京都で開催された。京都コンサートホール１８００席の２／３を中学・高校の吹奏楽生が占めてほぼ満席となる盛況なコンサートだった。

第１部「ザ・組曲」の「リンカーンシャーの花束」はイギリス中部の州の民謡を集めて６つの異なる組曲にまとめたもので、「展覧会の絵」は展覧会で絵を見た印象を１０曲の組曲としてそれぞれ楽器の組み合わせを変えて表現している。その中にはよく聞くメロディーがあった。

第２部「ザ・課題曲」は今年度全日本吹奏楽コンクール課題曲「５曲」について、須川コンサートマスターからのクリニックもあり、吹奏楽生にとっては大変勉強になった模範演奏となった。

最後のアンコールで１曲目「シガール」は須川氏のサキソフォン独奏に酔い、２曲目「雪娘より・道化師の踊り」ではダイナミックな演奏に心は踊り、大興奮と大拍手の中、コンサートは終了した。

今月は「諸宗教対話～開祖の願いをこの京都の地に～」はお休みさせて頂きます。

総選挙を前にして　政治家に期待すること

前号では、私たちの政治への取り組みについて紹介した。総選挙を間近に控え、今回は、これからの国政を託す政治家の方々に、よりよき政治をしていただきたく、私たちからの期待を述べたい。

以前、本紙でも紹介したが、本会は政治の基本姿勢「五項目」を掲げている。これは、本会と関わる政治家の方々にその実行を求めるとともに、私たちもその実現に努力するものだ。

その「５項目」とは、①生命（いのち）の尊厳を守る、②平和主義の推進、③思想・良心・信教の自由を守る、④政教分離の原則を守る、⑤政治倫理の確立である。

今回の総選挙では、各政党がマニフェストを発表し、政権を獲得した際の公約を明示している。有権者には、それぞれのマニフェストを読んで、誰に投票するか判断することも大切だ。

私たちは、党派にこだわらず、人物本位で候補者を選ぶことにしている。当然、上記の５項目を理解し、実行してもらうことは前提だが、私は、どのような政治哲学、国家観、政治観を持っておられるかが、大切だと思っている。

２０世紀は「戦争の世紀」と言われる。強国になろうとして、軍事力で他国に侵略して戦争が起こった。国家間の争いの元凶は、私たちの心の中に自分だけが豊かでありたいと思い、他国の領土や資源を求めようとするところにあるのだと思う。

一方現在は、自由と平等の考え方が普遍的な概念として世界的に定着している。しかし、無秩序な自由競争は弱肉強食の社会を招くことになる。一部の勝者と多数の敗者を生みだすことになる。つまり、「勝ち組」になれるのはごく一部で、逆に不平等を生みだすことになる。本来、政治はこれを調整する役割を持っていると考えている。

来る、８月３０日に当選された政治家の方々には、自分本位に考えず、しっかりした哲学をもって、すべての人々の平等性を重んじて、諸問題を解決するバランスのある政策を実現されることを期待したい。

京都教会　渉外部長

今月は「私のほのぼの日記」はお休みさせて頂きます。

他教団活動紹介

（中外日報８月６日より）

●おてつぎこども奉仕団

総本山知恩院のおてつぎ運動本部が主催する恒例のおてつぎこども奉仕団が、前期７月２６日から８月５日まで、後期１８日から２２日まで開催・予定されている。４３回目の開催で今年は３５教区から延べ約千百人の子どもたちが参加する。日程はそれぞれ２泊３日で初日は知恩院、２日目は比叡山の清龍寺に宿泊し、御影堂参拝、勤行、自然観察などを体験する。

京都教会　あの日あの時

昭和４５年１０月

第１回世界宗教者平和会議のボランティアの写真です。当時のボランティアは本部職員と京都教会の会員がほとんどだったそうです。自分の救われの時代から世界を救う時代を体感しました。

５０年前（１９５９年）の出来事：中国・インド国境紛争が起こりました。またハワイがアメリカ合衆国５０番目の州に昇格しました。

仏教を生活に生かす　「日常生活の中の仏さまの教え」

《真理によって救われる》

庭野開祖は「法華経に説かれている真理」をそのまま信じておられました。私たちは「**法華経に説かれていることは理想だけれど、現実はなかなか難しい。理想と現実は違う**」と、つい分けて考えてしまいます。結局は自分の価値観とか体験という「ものさし」を基準にして考えてしまうために、法華経の世界が見えないのです。見ようとしていないのです。

良い事をすれば、良い事が起きるという法則は、体験からも知っています。けれども、良い行いをして少し状況が変わると喜び、困った問題が起こるとまた動揺してしまいます。「少し不安だけれど、それでも前よりは良くなっている」と、自分にも他人にも言い聞かせ、ただそれをくり返すだけで、それが信仰だと思い込んでいるのではないでしょうか。でも、それだけではもったいないのです。**法華経の真理の世界は、根こそぎ救われる世界です。**

人間の出来ることには限界があります。問題をすべて解決したり、相手を変えるのはとても難しいことで、自分の力では出来ないのです。私たちに出来ることは、いい縁になって、いい出会いをすることです。

人さまの仏性が見えるようになった時、目の前の問題は展開し、解決していくのです。そうなると、もう人を直そうとしたり、問題を解決する必要はなくなります。すべてが自分を輝かせる「縁」であったことに気がつくからです。仏さまは、お慈悲によって私たちに難題をもたらして下さいます。それは法の認識を深めさせるためのお慈悲であり、幸せな心境に導くためなのです。自分が仏さまのはたらきを学ぶために出会うのですから、相手や問題の中に仏さまを見つけることが出来れば、仏さまがはたらいて下さるようになっています。

私が真理に沿っていけば、救いという果報は仏さまが出して下さるのです。それが、根こそぎ救われる法華経の真理の世界です。そこに「信仰」があるのです。どんな人にとっても、人生は苦しいものです。楽ばかりの人生はありません。救われていると思えば、急に明日から人生が楽になるわけでもありません。なぜなら、その苦しみが今の私にどうしても必要なことだからです。**いま歩んでいるこの苦労の中に「救い」があるのです。**

庭野開祖は「**仏教というのは、仏さまが救ってくれるのでなく、自分の行いで自分を救っていくことを教えているのだよ**」と、言っていましたが、それは自己流の考えで、自分の力で解決すると言うことではありません。自分の行いが自分を救っていくというのは、**自分が仏さまの願いに沿った心になった時、初めて実現されるのです。**仏さまの心に一歩でも近づきたいと願って仏道を行じていくところに、救い、救われの世界が開けるのです。

庭野開祖の宗教観・平和観　「一乗の道」

つらい旅(下)

アメリカに出かける二日前に家族が壮行会を開いた、その宴が終わって帰る時、泉田氏が孫を背にして「どうぞ、お元気で行ってらっしゃい」と言ったのが、最後の言葉となった。出来ることならこんな時こそ娘のそばにいて、慰め、励ましてやりたいと思った。しかし、庭野開祖は重大な使命を担っている身であった。

機上でじっと目をつぶり冥福を祈った。翌二十八日の早朝五時には、サンフランシスコのホテルで独り、「経典」と「法華三部経」を上げた。昨夜は夜半に目がさめてしまい眠ることが出来ず、そのまま起きてお通夜のつもりで夜を明かし、たまたま鞄に入れてきた「人生の花たば」という花岡大学先生の著書を読んだ。その著書の一節にこういう箇所があった。

永平寺の第二祖・懐奘(えじょう)禅師が道元禅師のもとで修行をしておられたとき、生母の命がいよいよ危ないという知らせが入った。しかし、おきてがあって帰ることが出来ない。同僚たちが「母上との今生の別れに行かなかったらこんな不幸はない。特別の場合だから許しをもらって帰るべきだ」と言う。だが懐奘は、きっぱりと断り「出家者として親を導くべき私が、悲母の人情に従って仏さまの教えに背くことは、かえって不幸をすることになる」と、そのまま修行を続けたというのである。

ここまで読み進んだとき、庭野開祖は「**仏さまが今の私に心がまえを説いて下さっているのだ**」と思い至り、心が定まった。花の一輪とて供えられなかったが、自分なりに泉田氏のお通夜ができた気がした。

その日の日記帳を見ると、「十月二十七日・晴れ。何事も因縁というが、佳子にはどうお悔やみを言ったらいいか言葉も知らぬ。無常迅速とは、まさにこのことか」と、短く記されている。

こうした悲しみを胸に秘めてお役を果たすのは、庭野開祖だけではなかった。**佼成会の幹部の皆さんが、家族のだんらんに目をつぶり、家族への愛情を振り切って精進して下さったからこそ、今の立正佼成会がある。**自らに託された責務を全うすることで、亡くなった泉田氏も喜んでいるはずだと庭野開祖は信じた。

ここが聞きたい！「藤末健三参議院議員に聞く」(3)

【平和について】

北朝鮮がミサイルを発射し、核武装を進めていることに対して、国内ではそれに対抗すべく防衛力を増強したり、集団的自衛権を認めたり、場合によっては核武装も必要だという論議が出ていますが、これに対してはどのように考えておられますか？反対されるのであれば、日本はどうすればいいのでしょうか？

武力に対し、武力で対抗しようとすると更なる軍拡競争を生み、戦争の危険性は高まる一方です。確かに北朝鮮によるミサイル発射など看過できない問題はありますが、私は日本単独で対応するのではなく、国際社会で協調して対応すべきと考えます。

例えば、NPT（核不拡散条約）の大幅な見直しが 2010 年 5 月に予定されており、NPT の枠組みに北朝鮮を組み込むような体制をつくるなどの対応が必要だと考えます。2009 年 4 月にアメリカのオバマ大統領が「核のない世界をつくる」ことを演説し、核兵器廃絶への機運は確実に高まっています。

私が所属する民主党も、マニフェストに「核兵器廃絶」を明記し、究極的には、朝鮮半島と日本から核兵器をなくす「北東アジア非核地帯条約」を締結しようと党内に核軍縮・不拡散議員連盟で議論を重ねており、条文案まで作成し終えています。

北朝鮮の核開発も含め世界から核兵器をなくすよう、日本が世界の先頭に立って行動すべきと考えます。

【臓器移植について】

今回の臓器移植法の改正で、「脳死が人の死」と定義されました。この考えが広がりを見せないか気になります。「心臓停止による自然死」はなくなるのでしょうか？一旦決まった法律について、効力を発するまでの一年間、国民は何もせずにこの法律を受け入れるべきなのでしょうか？

前回のお答えと重複しますが、臓器移植はドナー（提供者）を必要とする特殊な医療行為といえます。確かにレシピエント(提供を受ける人)の立場にあれば、提供される臓器が増える改正案（通称Ａ案）の成立は喜ばしいかも知れませんが、逆に脳死と判定されながらも懸命に尊い命を育まれている方々にとっては、非常に辛いことだと思います。

私としては、改正案に反対であれ、賛成であれ、投票を行った国会議員は、臓器移植に対し、自らの考えをきちんと示すべきであると考えます。具体的には、国会議員は全員がドナーカードを持つべきです。

また、国民の皆様に対しては、施行までの期間を何もせずに受け入れるということではなく、臓器移植に対する意識の啓蒙が重要であると考えます。万が一の場合、自らの、また家族の臓器を提供するか否かについて、きちんと考え、家族で話し合うといった機会を持つことも大切ではないでしょうか。

【政治資金について】

政治とお金の問題は常に言われてきました。政治には資金が要ります。そのため税金を投入することも承知してきました。もっと政治家が見返りを求めない資金調達ができるように、電話献金やネット献金などのクリーンな調達方法も認めるべきだと思いますが？

仰るとおり、これまでのいわゆる「政治とカネ」という問題の多くは、一部の企業などから不透明な献金などが政治家に対して行われ、それが政官業の癒着を生み、国民の皆様に対して不信感を生んでいるという状況にあります。

アメリカのオバマ大統領は大統領選挙中、一部の大企業からの献金ではなく、多くの個人からの献金を受けたため、しがらみのない政治活動を展開することが出来たといわれています。

その献金方法の多くはインターネットからのもので、手続きも簡単なものでした。民主党は企業からの献金を 3 年後に全面禁止することを決めていますが、私はなるべく早く行うべきだと考えております。

また、私は日本の政治家も同じように、もっと個人献金の方法を簡単に出来るようにすべきと考えており、現在、民主党内の研究会のメンバーとしてインターネット献金の議論を行っております。

政治への信頼を取り戻すためには、「政治とカネ」の問題をきちんと解決することが重要ですので、しっかりと取り組んでまいります。

渉外部からのメッセージ

今年は例年より遅く８月３日に近畿の梅雨明け宣言がありました。これは統計を取り始めた昭和２６年以来最も遅いものだそうです。７月１７日の祇園祭山鉾巡行が終われば京都には夏がやってくると言います。今年は今からが本格的な夏かと思えば、すでに７日の立秋を迎え暦の上では秋が到来してくることになります。「暑中お見舞い」が出せるのは４日間でこれからは「残暑お見舞い」になる訳ですね…。どちらにせよ、まだまだこの暑さには変わりはないようです。そして政界。国民自身が自分の心を熱くすることを望みます。

この月報を読まれて感想などがありましたらお気軽にお寄せ下さい。　RKK 京都教会　FAX 075-762-2266